

カガクで  
ネガイを  
カナイル会社

カネカは実験カンパニー

**KANEKA**

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

## 第97期 中間報告書

2020年4月1日 - 2020年9月30日

株式会社 **カネカ**

# カネカは 世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.



カネカは、環境をあるべき姿にする。

食べ物を健やかにする。

人間や動物を元気にする。

ビジネスに活気を与える。

そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、

さまざまなソリューションを通じて、

社会と人々の願いをかなえていきます。

カネカは命を育む社会を支えます。

## トップインタビュー



代表取締役 社長

田中 稔

株主のみなさまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年4月に代表取締役社長に就任した田中 稔より上半期の業績と今後の見通し並びに新中期経営計画についてご説明申し上げます。

**Q** 4月に社長に就任されましたが、そのときの心境はいかがでしたか。

**A** 就任を打診されたときは、業績は厳しく、大変な重責を担うことになったというのが最初の思いです。それと同時に、私が経営企画部長だった時代に策定した長期経営ビジョン『KANEKA UNITED宣言』で描いた2020年のゴールと現実のギャップを何とかして埋めていかなければならないという強い使命感を覚えました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり波高い船出となりましたが、私の会社人生の集大成として少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。

**Q** 上半期の振り返りと下半期以降の見通しについてお聞かせください。

**A** 世界の経済活動はコロナ禍の拡大により大きな打撃を受け、さまざまな価値観の変化とともに社会のパラダイムシフトが急速に進んでいます。世界経済は第1四半期の深刻な落ち込みを脱し、第2四半期は中国、米国を中心に各産業において回復の動きが強まっています。欧米でのコロナ禍の第二波の影響など不透明感が残るものの、10月以降は総じて回復ペースが上がり想定されます。

このような状況のなか、当社グループの上半期の業績は、売上高は2,667億円、営業利益は70億円と対前年同期比で減収減益となりました。しかしながら、第1四半期にコロナ禍で大きな打撃を受けたコア事業群(Vinyl、MOD、MS、Foam、Fiber、Foods)については世界経済活動の再開に伴い生産回復が進み、第2四半期から月を追って需要回復のペースが

上がっており、下半期は本格的な収益拡大を見込んでいます。コロナ禍を超えるさらなる成長軌道への道筋が見えてきました。パラダイムチェンジのなかで成長機会が広がっている高収益の先端事業群(E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement、農業生産支援)は、下半期も着実に事業拡大が進む見通しです。その結果、10月以降の当社業績は改善から再成長のステージへとモメンタムが強まると想定しています。コロナショックがもたらす劇的なパラダイムシフトを睨み、R&Bの「選択と集中」や間接部門を含めたDXの推進により、生産性の向上と新たなビジネス価値の創出に取り組む一方、経費等の徹底したコスト合理化も進めています。全社を挙げて生産性の最大化を目指す「Smart Work」の実現に取り組み、事業ポートフォリオの変革を加速させてまいります。

## Q 10月に新中期経営計画を公表されましたが、その概要を教えてください。

**A** 今回の新中期経営計画では、ポートフォリオの変革を一層加速し、押し進めます。コロナ禍のもとで企業体質の強化を図るとともに、このパラダイムチェンジのなかで成長機会が拡大する、E&I、PV、Medical、Pharma、Supplement等先端事業群、PHBH、OLED、再生細胞医療等の大型新規事業群に経営資源を重点投入していきます。当社は多様な事

業、多様な技術、Only One、グローバルNo.1の技術・製品を多数保有しています。これらの強みに軸足を置きながら、オープンイノベーション、M&Aなど、外部の事業資産も最大限に活用し、高い付加価値の創造を目指します。

先端事業群については、当社の業績を牽引する大黒柱にしたいと考えています。インフェクション(感染症)対応に軸を置

き、Pharmaではコロナワクチンや治療薬向けの受注案件が急拡大しているカネカユーロジェンテック社のさらなる設備増強を進めます。Medicalにおいてもコロナ問題に貢献できる医療機器や検査診断領域の拡大を図るとともに、グローバルに拡大する旺盛な需要に応えるため、ベトナム工場の能力増強を行い、インターベンション事業の大幅な拡大を実現します。

コロナ禍によりデジタル、情報通信の高度化が一気に加速します。5G、EV、CASEの社会実装が進展するなか、E&Iでは市場動向を捉え、デジタル社会に貢献する差別化力ある素材開発を進め、ポリイミド製品や光学フィルム、オプトエレクトロニクス分野で事業拡大を目指します。

大型新規事業では、特にPHBHの社会実装を急ぐべく、世界のブランドホルダーと共同で用途開発を進めており、早期に商業生産プラントを建設する予定です。できるだけ早い時期にみなさまに発表できるようにしたいと考えています。

一方、コア事業は、経営基盤を支える強いプラットフォームを構築します。コロナ禍で世界的に需要が一時消滅したVinyls and Chlor-AlkaliやPerformance Polymersにおいて、独自性の高い高付加価値製品の塩ビ系特殊樹脂やモディ

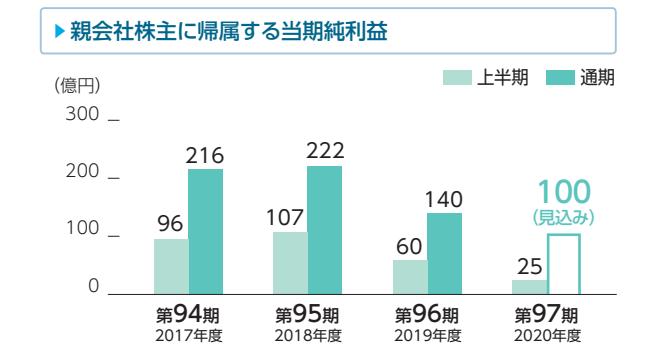
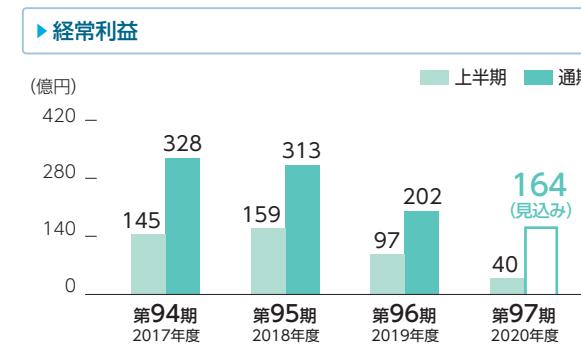
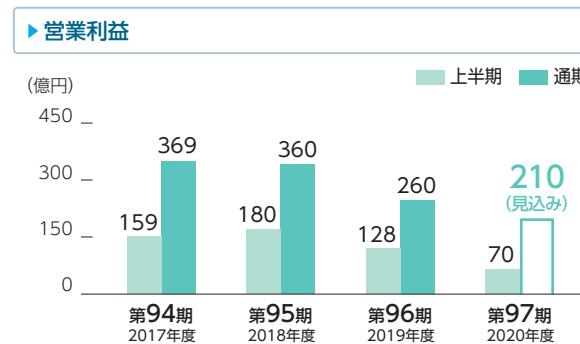
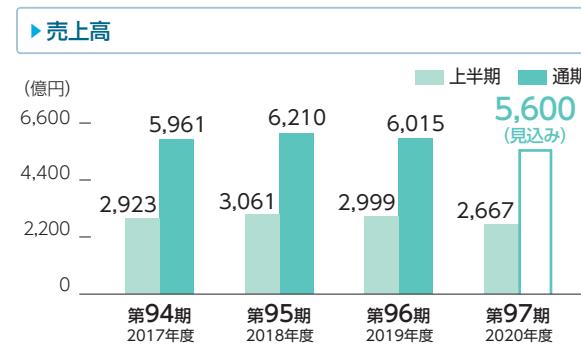
ファイヤーの収益力を回復すべく重点的に取り組みます。足元では、Material SUの需要が急回復しており、特に塩ビペースト樹脂ではコロナ対応の衛生用手袋向けの需要が大幅増となっています。

以上のような取組みにより、2022年度は売上高7,000億円、営業利益530億円を見通しています。また全体の営業利益に占める先端及び新規事業群の割合は、2019年度の25%から2022年度には50%に大幅アップし、事業ポートフォリオを大きく変革させていきます。

最後になりましたが、中間配当金につきましては、1株当たり50円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 連結業績ハイライト



# セグメント別概況

## Earthology Chemical Solution / 持続的で快適な生活環境を創造する

### Material Solutions Unit

Material Value Creator  
素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

**Vinyls and Chlor-Alkali**の塩化ビニル樹脂については、第2四半期はロックダウン解除後のインド向けや中国向けに輸出が大幅に増加し、塩素化塩ビも出荷が始まっています。塩ビペースト樹脂の衛生用手袋向けも好調であり、マレーシアの工場はフル稼働となっています。第2四半期は対前年同期で増益となりました。

**Performance Polymers**のモディファイヤーについては、欧米垂での経済活動再開により需要が回復しました。第2四半期後半から販売数量が前年水準に復調しています。変成シリコンポリマーについては、中国の建築用途に加え、欧米で需要が回復し、第2四半期は前年並みに復調しました。

カナカ生分解性ポリマー-PHBHについては、20,000t量産プラント建設決定に向けて引き続き生産性向上、コストダウンの最終検討を進めています。

当Unitは、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

### Quality of Life Solutions Unit

Quality of Life Pathfinder  
素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

**Performance Fibers**については、第1四半期はコロナ影響によりアフリカ・米州向けの頭髪・難燃の需要が落ち込みましたが、アフリカ向けは7月から月を追って回復しています。難燃、パイルの衣料用途は回復が遅れました。

**Foam & Residential Techs**のスチレン系発泡樹脂及び押出ボードについては、国内需要低調下でもスプレッドを確保しました。発泡ポリオレフィンについては、遅れていた自動車向けが回復基調です。

**PV & Energy management**については、住宅向け高効率太陽電池が搭載率上昇により販売数量は堅調です。

**E & I Technology**については、第2四半期はスマホ用需要増やコロナ禍に伴うリモートワーク拡大によるタブレット・ノートPC向けが好調で、ピクシオは過去最高レベルの出荷となりました。5G向け対応製品が販売増となり、新製品開発も順調に進展中です。

当Unitは、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

## Active Human Life Solution / 健康で活力に満ちた人生を支える

### Health Care Solutions Unit

Medical Edge Explorer  
革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る

**Medical**については、国内、海外市場ともに拡大しました。新製品の脳動脈瘤塞栓コイルが好調で、9月には米国向けの販売を開始し収益拡大に寄与しています。ASO治療用の新規血液浄化器を2021年に販売予定です。

**Pharma**については、アビガン原薬やカナカユーロジェンテック社のPCR検査試薬の供給開始などにより収益が拡大し、対前年同期で大幅な増益となりました。カナカユーロジェンテック社でアンジェス社ワクチン中間体の製造受注をはじめ世界大手製薬会社の引き合いが増加しています。バイオロジクス能力増強設備も10月に稼働し収益拡大に寄与する見込みです。早期の次期能力増強を検討中です。

当Unitは、売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

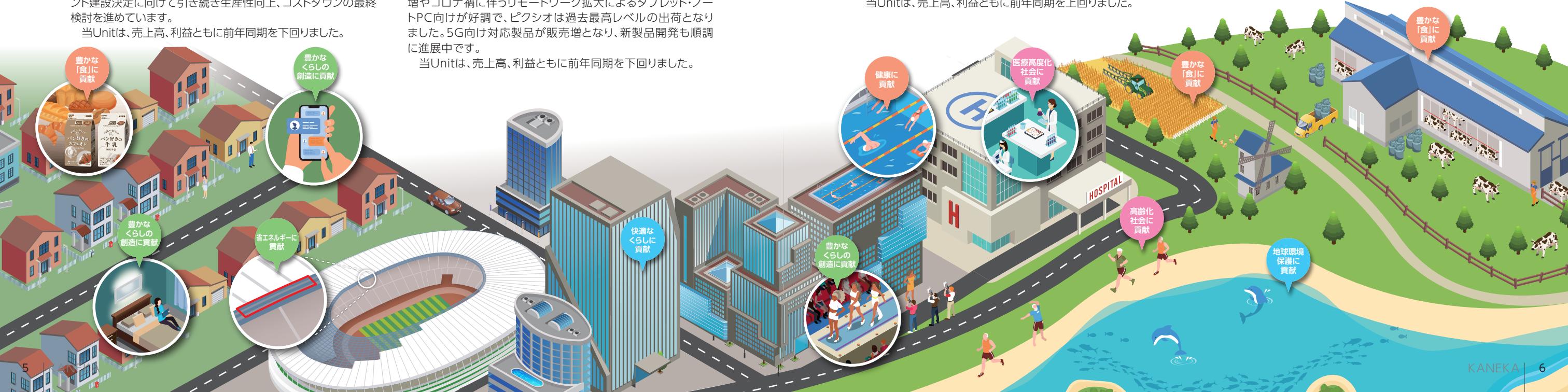
### Nutrition Solutions Unit

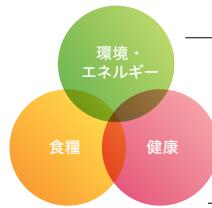
Nutrition Value Chain Innovator  
食と健康に革新をもたらす

**Supplemental Nutrition**については、米国で免疫力アップ意識の高まりにより還元型コエンザイムQ10が販売好調です。今秋から米国に続き日本でも腸内環境改善に効果がある乳酸菌を販売開始予定です。

**Foods & Agris**については、中食増によりスパイス製品は堅調です。製パン・製菓分野は需要が回復基調ですが、インバウンドの不振が響き回復の足取りは遅れています。カナカグループ商品(サプリメント、乳製品、チョコレート、スパイス)のオンラインショップ開設、e-コマースでの販売拡大など事業の高付加価値化への取組みが進んでいます。

当Unitは、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。





# 特集：KANEKA thinks “Wellness First”.

## 「3つのクライシス」へのソリューション

当社はESG経営を実践し、世界を健康にする「健康経営-Wellness First」を目指します。世界のクライシスに対して貢献できる分野を「環境・エネルギー」「食糧」「健康」に決めました。

3つのクライシス

環境・エネルギー

食糧

健康

今回のテーマ  
健康

## カネカの技術を結集し、世界の脅威に立ち向かうソリューションを提供

当社は、世界のクライシスに対して貢献できる重点分野を「環境・エネルギー」「食糧」「健康」と定めています。今回の特集では「健康」をテーマとして取り上げ、新型コロナウイルス感染症に対するさまざまなソリューションをご紹介します。

### 世界で急がれるインフェクション(感染症)対策への対応

今回の新型コロナウイルス感染症の終息が依然見通せないなか、当社は、感染拡大当初よりPCR検査試薬や「アビガン®錠」の原薬供給を積極的に進めてまいりました。

今年8月には、アンジェス株式会社や大阪大学などが開発を進めているDNAワクチン\*1の大量生産に向けた製造体制に参画の上、グループ会社のカネカユーロジェンテック社で、同ワクチン中間体の製造を受託いたしました。カネカユーロジェンテック社は、mRNA\*2やプラスミドDNA\*3など最先端の高度技術を

保有しており、製薬企業やバイオベンチャーが開発を加速させている新型コロナウイルスワクチンの受託製造の旺盛な引き合いに対応を続けています。

また、今年10月には、新型コロナウイルスを1時間以内に検出可能なRT-qPCRキット(製品名：KANEKA Direct RT- qPCR Kit“SARS-CoV-2”)を国内グループ会社の株式会社カネカメディックス(本社：大阪市、社長：石坂 昌三)より医療機関及び検査施設向けに販売開始しました。

今回販売する検査キットは、通常検査に必要とされる唾液や鼻咽喉ぬぐい液から採取した検体からのウイルスRNA\*4精製工程が不要で熱処理だけで前処理工程が完了します。これにより従来法では約1時間を要していた前処理工程をおよそ5分に短縮することで、PCR検査全体の所要時間を大幅に短縮し、1時間以内の判定が可能となります。



1時間以内に新型コロナウイルスの検出が可能なPCR検査キット



カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬受託開発製造棟

### 医療・食品従事者への感染予防にも貢献

今回の新型コロナウイルス感染症拡大は、感染者はもとより、医療現場をはじめとした従事者の感染予防対応も社会的な課題となっています。

新型コロナウイルス感染予防対策として、医療・食品向けを中心に世界各地で極薄手袋の需要が急拡大しており、日本では入手困難で、価格が高騰する状況となっています。

こうした環境のなかで、当社の塩ビペースト樹脂は、衛生用手袋の材料として、安定した供給を続けており、急拡大する需要に応え感染予防や衛生対策に貢献しています。



医療従事者などが使用する塩ビペースト樹脂製極薄手袋

### 組織横断的な社内体制で最大限のソリューション提供へ

当社は、保有する多岐にわたる技術を最大限活用し、幅広い視野からユニークな社会実装を進めていく目的で、感染症対策の研究開発を進める「インフェクション研究チーム」を社内です立ち上げました。

PCR検査キット、PCR検査試薬や、DNAワクチン中間体の製造、「アビガン®錠」の原薬供給など、世界的な課題である新型コ

ロナウイルス感染症問題の課題解決に向けて幅広く取り組んでいます。今後も当社の持つさまざまな技術を結集することで、患者や関連従事者に役立ち、人々が健康で安心・安全な人生を送れる革新医療をはじめとしたさまざまなソリューションを提供し、世界を健康にしていきたいと思います。

「カネカは命を育む社会を支えます。」

※1 危険な病原体を一切使用せず、対象とする病原体の一部タンパク質をコードするプラスミドDNAを摂取することで、当該タンパク質を体内で生産し、病原体に対する免疫を付与させるワクチン。

※2 DNAからタンパク質合成の遺伝子情報を写しとり伝えるRNA分子。新たなモデルとしてワクチンや治療薬への応用が期待されている。

※3 大腸菌などの細菌や酵母の核外に存在し、細胞分裂によって娘細胞へ引き継がれる環状DNA分子の総称。

※4 新型コロナウイルス特有の遺伝子のこと。ウイルスRNAをPCR検査で増幅させ、感染の有無を検出する。

TOPICS 1 Nutrition Solutions Unit

高付加価値な乳製品の展開を強化～おいしさと健康を求めて～

乳製品の展開

当社は、2018年より新たに乳製品事業に参入し、好評いただいている「パン好きの牛乳」シリーズのほか、技術提携先であるベルギー・Pur Natur (ピュアナチュール) 社とタイアップした「ベルギーヨーグルト」や、「Pur Natur 発酵バター」など乳製品を販売・拡充しています。これらの製品は市場で高い



好評発売中の「パン好きの牛乳」シリーズ

なお、今年10月からは、カネカ公式ホームページにオンラインショップ (<https://www.kaneka.co.jp/onlineshop/>) へアクセスできるページを開設しましたので、是非ご利用ください。

評価を得ており、ベーカリー店の販路に加え、コンビニエンスストアやスーパーなど販売店の拡大を進めています。

また、近日中に「パン好きの牛乳」シリーズでミルクティーの新商品を、さらに、新たな企画として還元型コエンザイムQ10を配合した健康志向のヨーグルトを発売準備中です。



香り豊かな風味とミルク感が感じられる「Pur Natur 発酵バター」

有機酪農会社の設立

当社は今年6月、株式会社別海ミルクワールド (所在地：北海道野付郡別海町、社長：中山 貞幸) と、有機生乳<sup>\*1</sup>の製造・販売会社「株式会社別海ウェルネスファーム」を設立しました。同社は今後、有機専用牧場として、生産性の高い有機酪農に取り組みます。この牧場は2021年4月に稼働し、2022年に生乳の有機JAS認証<sup>\*2</sup>取得を予定しています。牧場の生乳は全量を当社が買い取り、ヨーグルトを中心に牛乳やバターなど有機乳製品の品揃えの拡充を進めていきます。

厳しい環境下におかれている国内の酪農業に対して、当社は酪農家と共に魅力ある酪農業を考え、人・乳牛・環境に配慮した持続可能な循環型酪農の推進を進めていきます。

- ※1 有機飼料の使用など、有機JAS認証の規格に則った環境で飼育された牛から絞られた生乳。生乳は絞ったままで加工を行っていない乳のことであり、牛乳や乳製品の原料となる。
- ※2 農林水産省が定める有機食品の検査認証制度。農業や化学肥料などの化学物質に頼らずに生産された農産物や畜産物等であることを認証する。



有機専用牧場に建設予定の新牛舎 (イメージ図)



有機酪農拠点となる株式会社別海ウェルネスファームの所在地

TOPICS 2 Health Care Solutions Unit

革新医療技術によるQuality of Lifeの向上への貢献

～医療用カテーテル生産能力増強と吸着型血液浄化器の展開～

ベトナムでの能力増強

当社は、心臓・末梢血管疾患及び脳血管疾患の治療デバイスである血管内治療用カテーテルや、消化管がん<sup>\*1</sup>の治療に用いる消化器用医療機器、不整脈検査用の電極カテーテルなどの医療用カテーテルを、日本とベトナムで生産しています。



血管内治療用カテーテル

グローバルに拡大する旺盛な需要に応えるため、今年6月、グループ会社のカネカメディカルベトナム社 (本社：ベトナム ビンズン省、社長：森 稔幸) における医療用カテーテルの生産能力増強を決定しました。既存工場の隣接地に新工場を建設し、生産能力を約3倍に拡大し、2022年1月の稼働を予定しています。



生産能力を増強する新工場 (イメージ図)

先進国を中心に高齢化が進行し、三大疾病 (心疾患、脳疾患、がん) の患者数は増加しています。医療用カテーテルを用いた手術は、患者への負担が少ない低侵襲<sup>\*2</sup>な治療法であることから、グローバルに市場規模が拡大していく見通しであり、今回の能力増強により今後も新製品を積極的に市場に投入します。

新しい吸着型血液浄化器の開発

当社は、潰瘍を有する重症化した閉塞性動脈硬化症 (ASO)<sup>\*3</sup> を治療する吸着型血液浄化器 (製品名：レオカーナ<sup>®</sup>) を開発し今年8月に製造販売承認を取得、2021年春の販売開始を目指しています。

高齢化の進行や、重症化の要因である糖尿病や慢性腎不全などが増加することで、ASOの患者は増加すると予想されています。今回開発した吸着型血液浄化器は病因物質を選択的に除去して、浄化された血液を再び体内に戻すシステムで、病因物質を吸着する新たなセルロースビーズの開発により、ASOの発症にかかわる病因物質を取り除くことが可能となりました。

今後も当社は、低侵襲治療や血液浄化療法に貢献するソリューションを提供し、患者のQuality of Lifeの向上に貢献してまいります。



吸着型血液浄化器 (製品名：レオカーナ<sup>®</sup>)

- ※1 食道、胃、小腸、大腸などの消化管に発生するがん。
- ※2 開頭術、開腹術のような外科的手術に比べて身体への負担が少ないこと。
- ※3 動脈硬化などが原因となり下肢動脈の内部が狭窄・閉塞することで、血液の循環障害 (虚血) が引き起こされる疾患。

TOPICS 3 Nutrition Solutions Unit

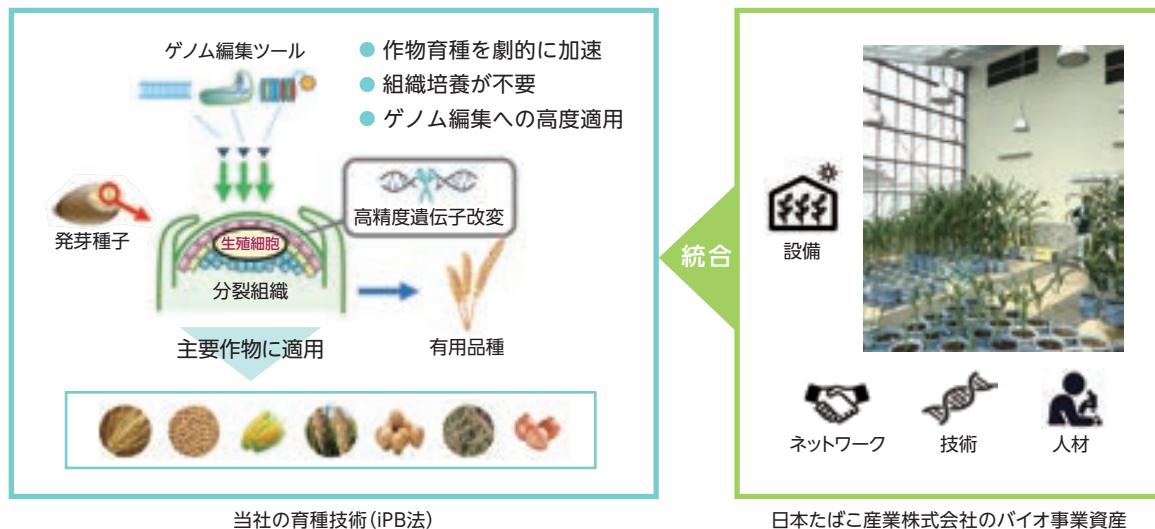
ゲノム編集育種の研究開発加速による農業生産支援

当社は、今年8月に日本たばこ産業株式会社と植物バイオテクノロジー<sup>※1</sup>に関する資産譲受に合意しました。

この資産譲受は、当社のコア技術として高い評価を受けている、高効率で幅広い実用作物品種に適用可能な「インプラントゲノム編集技術<sup>※2</sup>」(iPB法)に、日本たばこ産業株式会社が有する最先端の研究関連設備、業界内のネットワーク、実績豊富な遺伝子導入の技術力を活用することで、ゲノム編集作物の研究開発を大幅に加速・効率化し、従来の作物育種を変革することを目的とするものです。

今後、新たな体制で研究開発を更に加速させ、遺伝子導入技術の種子企業へのライセンス供与や、顧客のニーズに合わせた、機能性・多収性に優れた作物種子の研究開発受託<sup>※3</sup>を強化していきます。さらに、将来的には、成長が期待されるゲノム編集作物の種子事業への参入を目指します。

当社は、「カネカは世界を健康にする」という考えのもと、オープンイノベーションも活用しながら、食の安心・安全、安定供給など、世界のさまざまな食糧課題に対するソリューションの提供を加速してまいります。



※1 病害耐性などの有益な性質・特徴を植物に導入する育種技術(組織培養技術、遺伝子導入技術など)。  
 ※2 従来のゲノム編集技術と異なり、ゲノム編集酵素遺伝子を染色体に組み込むことなく、遺伝子改変が可能のため、迅速な品種改良を実現可能とする技術。  
 ※3 顧客から依頼を受け、ゲノム編集種子を開発すること。

▶ 四半期連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	第97期 2020年9月30日現在	第96期 2020年3月31日現在
資産		
流動資産	2,920	3,069
固定資産	3,523	3,464
資産合計	6,443	6,533
負債		
流動負債	2,061	2,116
固定負債	810	876
負債合計	2,871	2,992
純資産		
株主資本	3,321	3,327
その他	251	214
純資産合計	3,572	3,541
負債純資産合計	6,443	6,533

**Point**

- 総資産は、売掛金の減少等により、前期末に比べ90億円減の6,443億円となりました。
- 負債は、買掛金の減少等により、前期末に比べ121億円減の2,871億円となりました。
- 純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により、前期末に比べ31億円増の3,572億円となりました。

▶ 四半期連結損益計算書(要約) (単位:億円)

科目	第97期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	第96期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで
売上高	2,667	2,999
営業利益	70	128
経常利益	40	97
税金等調整前四半期純利益	39	91
親会社株主に帰属する四半期純利益	25	60

**Point**

- 売上高は、前年同期に比べ331億円の減収(前年同期比11.1%減)となりました。
- 営業利益は、前年同期に比べ58億円の減益(前年同期比45.1%減)となりました。
- 経常利益は、前年同期に比べ57億円の減益(前年同期比58.5%減)となりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ36億円の減益(前年同期比59.0%減)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:億円)

科目	第97期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで	第96期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	282	162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 228	△ 209
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 30	△ 33
現金及び現金同等物の四半期末残高	399	318

**Point**

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により282億円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により228億円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により30億円の支出となりました。
- この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、399億円となりました。

※詳細の情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

# 企業データ

(2020年9月30日現在)

## ▶ 会社の概要

社名 株式会社 **カネカ**  
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028  
東京都港区赤坂1丁目12番32号  
(アーク森ビル)  
TEL (03)5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288  
(本店) 大阪市北区中之島2丁目3番18号  
(中之島フェスティバルタワー)  
TEL (06)6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

## ▶ 役員

代表取締役会長	菅原	公一
代表取締役社長	田中	稔
取締役副社長	藤井	一彦
取締役専務執行役員	亀高	真一郎
取締役専務執行役員	石原	忍
取締役常務執行役員	泥	克信
取締役常務執行役員	榎	潤
取締役上級執行役員	角倉	護
取締役(社外)	井口	武雄
取締役(社外)	毛利	衛
取締役(社外)	草刈	隆郎
取締役(社外)	横田	淳
監査役(常勤)	松井	英行
監査役(常勤)	岸根	正実
監査役(社外)	藤原	浩
監査役(社外)	魚住	泰宏

## ▶ 株式の状況

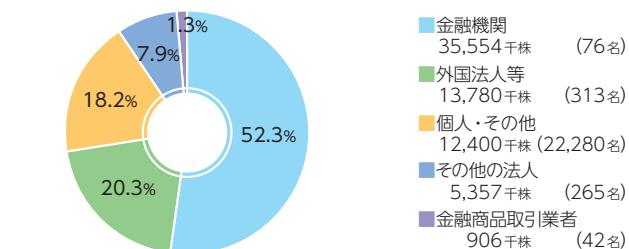
発行可能株式総数 ..... 150,000,000株  
発行済株式の総数 ..... 68,000,000株  
株主数 ..... 22,976名  
1人当たり平均持株数 ..... 2,960株

## ▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,444	6.81
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,986	6.11
日本生命保険相互会社	3,114	4.77
株式会社三井住友銀行	3,091	4.74
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	2,673	4.10
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.23
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	1,470	2.25
カネカ取引先持株会	1,154	1.77

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨てております。  
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。  
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式が2,762千株あります。  
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、2020年7月27日付で、株式会社日本カストディ銀行に商号変更しております。

## ▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨てております。  
2. 比率は小数第二位を四捨五入しております。

# 株主様向けインフォメーション

## ▶ WEBサイトのご案内

株主・投資家のみなさまをはじめとするステークホルダーの方々に、より使いやすく、わかりやすく情報をお伝えしています。  
今後も内容の充実に取り組みとともに、適時適切な情報開示を行ってまいります。

カネカ

検索

<https://www.kaneka.co.jp/>

## ▼ トップページ



## ◀ IR情報

経営方針、業績・財務情報、IR資料、株式情報などを掲載しています。

10月5日に開催した新中期経営計画説明会の資料を掲載しています。



## ▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告方法	電子公告	
	<a href="https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html">https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html</a>	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部	
	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (お問合せ先) TEL 0120-094-777(通話料無料)	

(注) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。  
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。  
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

〈カバーアート〉アーティスト: 曾谷朝絵  
・タイトル: 宙(sora)  
・制作年: 2013年

UD FONT  
by MORISAWA

